

真鶴ライフ観光デザイン アクションプラン

～「幸せをつくる真鶴時間」であるために～

ごあいさつ

神奈川県西、相模湾に顔を出す小さな港町、真鶴。
自然豊かな真鶴半島の磯や岩礁には、今でも手つかずの自然が
残っており、それらは海の生物たちにとって重要な生活基盤を
提供しつつ、相模湾随一の生物多様性を誇っています。

また半島先端には 1661 年小田原藩により植林された、樹齢約
350 年以上のマツの群生や、クスノキ・スダジイなどの巨木が生
い茂る「魚つき保安林」があり、真鶴町人は昔から「お林」と呼び「魚を育てる森」として、大切
に守ってきました。この魚つき保安林の恵みを豊富に受けて育った海の幸は、身が引き締まり、四季
折々の豊富な魚種が楽しめます。

その他、真鶴町でしか採ることができない小松石の最高峰ブランド「真鶴本小松石」や、斜面を生
かし潮風と太陽をたっぷりと浴びた柑橘類など、真鶴町にはたくさんの自然の恵みがあります。

観光の変化として、昭和後期には「団体・宴会・周遊・イベント」といったキーワードでツアーが
生まれ、真鶴町にも三ツ石などの名所・旧跡にたくさんのお客様が団体バスで観光に訪れていました。

近年では“本物”志向の消費者が多く、モノ消費からコト消費へと変化しています。キーワードも
「個人・体験・滞在・交流」へと移り、「今だけ・ここだけ・あなただけ」という地域の独自性にこ
だわったものをお客様は求めています。

先に挙げたとおり真鶴町には観光資源がたくさんありますが、総合的な観光資源は「自然の恵み」
「人々の営み」「催し」の 3 つが交わりすべてが揃ったときに生まれる、すべての人に自慢ができる
「真鶴ライフ」であり、この「真鶴ライフ」こそが都会では真似できない幸せな時間だと考えます。

平成 28 年度に作成した観光グランドコンセプト「幸せをつくる真鶴時間」。

これを実現するために、やるべきことをまとめた「真鶴ライフ観光デザイン アクションプラン」
を作成しました。

真鶴人がひとつになって「小さい町だからこそできるおもてなし」を実践していけるよう、町民の
皆様、各種団体、関係機関の方々のご協力をお願いいたします。

平成 30 年 11 月

真鶴町長 宇賀 一章

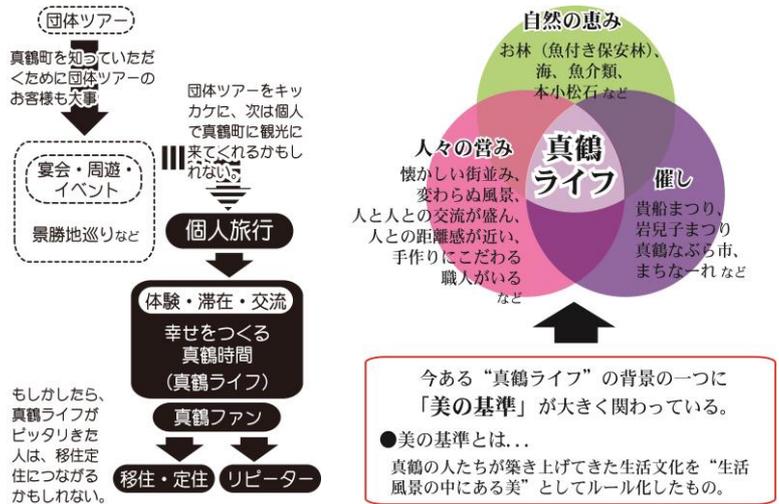


これまでの経緯

■ 関東観光まちづくりコンサルティング事業

真鶴町は、国土交通省関東運輸局所管の「関東観光まちづくりコンサルティング事業」（以下、「コンサルティング事業」）の平成 28 年度重点支援地域に選定され、1 年間の事業期間の中で専門家の委員の皆様のアドバイスを受けながら、移りゆく“観光”の中で、真鶴の観光を活かしたまちづくりについてさまざまな議論を交わしてきました。

その中で生まれた真鶴町観光ブランドコンセプト「幸せをつくる真鶴時間」。真鶴町で暮らす人、観光やお仕事などで真鶴町を訪れる人など、真鶴町で過ごす時間は皆さんに幸せをもたらせてくれています。素朴ですが人の温かみを感じることができる真鶴町の日常「真鶴ライフ」の中で、真鶴半島の自然や新鮮なお魚を楽しんでいただくことこそが、真鶴町の「今だけ・ここだけ・あなただけ」であり、「幸せをつくる真鶴時間」なのです。



■ 真鶴ライフ観光デザイン協議会

平成 29 年度、前年の関東観光まちづくりコンサルティング事業を継承し「真鶴ライフ観光デザイン協議会」（以下、「協議会」）を発足し、「幸せをつくる真鶴時間」の実現に向けスタートしました。

協議会は、漁業協同組合、石材協同組合、旅館組合、民宿旅館組合、飲食店組合、商工会、観光協会の代表者をはじめ、世代や業種を問わず観光に携わっている町民が委員となり、協議会の実働組織であるワーキング会議は月 1 回の開催を目標に開催し、本編構成の礎を議論しています。

キーワード

■ 「真鶴らしさ」 = 「真鶴ライフ」

素朴で懐かしく、のんびりゆったりできる生活風景。

例) 港、干された網、背戸道、昔からある民家、お林、三ツ石、集う人々

■ 「真鶴人」

人と人との距離が近く、誰でも受け入れてくれる人の温もりがある。

口は少し悪いが、郷土をこよなく愛す。

真鶴ライフ観光デザイン アクションプラン ～全体像～

本編は、真鶴町で暮らす人や真鶴町を訪れる人に、真鶴町で過ごす時間とおして“幸せ”を感じていただくことを目標に、4つの基本戦略に基づき、11 のプロジェクトを設定するとともに、25 の具体的なアクションの内容についてまとめています。

真鶴ライフ観光デザイン アクションプラン ～全体構成～

本アクションプランは以下の 11 のプロジェクトで構成されています。

基本戦略	プロジェクト	具体的なアクション	P
1. 真鶴人づくり	① 町民を巻き込んだ「観光まちづくり」の推進	グランドコンセプトの共有 「美の基準」の再認識 観光ガイドの育成	3
		② 学校教育を通じて子どもたちに真鶴町の魅力を知ってもらう取り組みの推進	真鶴町を知り未来へ伝える 地域行事への積極的な参加
2. 受入態勢づくり	③ 宿泊施設や飲食店のおもてなし及びサービス向上	観光協会及び商工会を中心に各組合を主体とした情報交換会や勉強会などの実施 “一人旅”受入態勢の整備	5
		④ 二次交通の利便性の向上（インフラ整備を含む）	交通事業社との連携 レンタサイクル事業の充実
	⑤ 分かりやすい町案内	観光案内板の設置（歩行者用） 標識（サイン）の設置（車用）	7
		⑥ インバウンド対策	真鶴人との交流と通じて日本のマナーを学び、楽しむ
	⑦ マーケティング	真鶴町の観光に対する意見等の共有	8
3. 観光資源の掘り起し及び改善	⑧ 観光交流の場づくり	体験プログラムづくり まちあるきツアーの造成 観光モデルコースの設定	9
		⑨ 価値の再認識	歴史・文化の勉強会 真鶴町お林保全協議会との連携
	⑩ 特産品の開発及び普及	真鶴らしいお土産・特産品の開発 期間限定の新メニューの開発 小松石の活用 まご茶漬け・いか爆弾の普及	11
		⑪ 効果的なプロモーションの展開	インターネット環境を活用した真鶴の魅力の発信 看板の作成 パンフレットの充実

※第4次真鶴町総合計画 後期基本実施計画 事業を記載（以下、【総合計画】）。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト① 町民を巻き込んだ「観光まちづくり」の推進

(産業観光課・まちづくり課)

【趣旨・ねらい】

- 「幸せをつくる真鶴時間」を町民に周知及び認知・記憶していただくことにより、より一層来町者を温かく迎え入れてもらえるようにする。来町者に幸せを感じてもらうことにより、町で暮らす人の心も豊かになること目的とする。
- 行政だけでなく町民を巻き込んでいくことにより、全町民で真鶴町の良さを再認識し、グランドコンセプトの意思統一を図ることが可能となり、心のこもったよりよいモノが生み出される。
- 何十年前と変わらない真鶴町の風景は、人の心に懐かしさや温かみを感じさせてくれる。「美の基準」を継承していくことで、いつまでも変わらない真鶴町の風情を守っていくことができる。

【具体的なアクション】

1) グランドコンセプトの共有

- ▶「幸せをつくる真鶴時間」を町民全体で共有することによって広く町内外へと発信する。
 - ・ポスター、チラシの作成
 - ・町広報紙への掲載や自治会回覧
 - ・SNS
 - ・のぼり旗
 - ・公用車マグネット
 - ・国道135号線の看板
 - ・駅中ポスター
- ▶グランドコンセプトのロゴを作成し、町に関わる媒体に掲載する。また、ロゴの使用方法を決定し、行政以外にも使用していただくことにより広く周知させる。【済】
- ▶観光客への挨拶・声がけを意識し、気持ちよく真鶴町に滞在していただく。
 - ・レンタサイクルのお客様に積極的に声がけをする。

2) 「美の基準」の再認識

- ▶平成6年に施行した真鶴町まちづくり条例の中には、真鶴らしさ、美しさを文書に示した「美の基準」が組み込まれており、現在の穏やかな真鶴町の景観は「美の基準」によって地域の特性を生かし、尊重されてきたものである。
- ▶「美の基準」についての職員研修を実施し、まず職員への理解を深める。
- ▶学校教育と連携した「美の基準」教育の機会を図り、「だから真鶴町は変わらないんだ」「変わらないことは恥ずかしいことではないんだ」「真鶴らしさが、真鶴の美しさにつながるんだ」ということを認識し、理解するとともにありのままの真鶴町に愛着を持ってもらう。

※【総合計画】No.1203 「美の基準」の運用（景観計画）とPR

3) 観光ガイドの育成

- ▶観光協会所属の観光ガイドの育成・勉強会
- ▶各事業者や町民も簡単なアマチュアガイドになれるよう、知識をつける。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト② 学校教育を通じて子どもたちに真鶴町の魅力を知ってもらう取り組みの推進
(教育課)

【趣旨・ねらい】

- 小・中学校で取り組んでいる「ふるさと教育」を通じ、真鶴町の産業を身近に感じ、真鶴町で働いている人と接することにより、真鶴愛を育むことを目的とする。
- 小中学生に行政主体の催しや民間主体で開催されているさまざまなイベントに参加してもらい、地域の方々とのコミュニケーションを図ることによって、町民の輪を広げることを目的とする。

【具体的なアクション】

1) 真鶴町を知り未来へ伝える

- ▶ 中学校で実施している「職業体験」では、漁業をはじめ農業・石材業など、地元に根付いた職業を体験し、これまで町を支えてきた産業や歴史について学ぶことにより、真鶴愛を育む。また、同時に受入態勢を充実させることにより、真鶴町の未来を担う地元の子どもたちとの交流を図る。
- ▶ 真鶴町の歴史・文化・名所・産業・特産などを讀んだ「真鶴かるた」を作成。
学校に取り入れることにより、小さな頃から遊びながら楽しく真鶴町の郷土に触れ、学ぶことができる。

※【総合計画】No. 4301 まなづるふるさと教育推進事業
子どもたちの郷土愛育成・魅力再発見事業

2) 地域行事への積極的な参加

- ▶ 小・中学生が行政または民間主催のイベントに参加することにより、地域コミュニティの輪が広がる。可能であれば主催者側で参加してもらうことにより、地域の方々との絆を深め、町への愛着を深める。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト③ 宿泊施設や飲食店のおもてなし及びサービスの向上

(産業観光課 産業係)

【趣旨・ねらい】

- 観光協会及び商工会を中心に各組合の連携を強化し、「真鶴町ならでは」「真鶴町らしい」おもてなしやサービスをお客様に提供することにより、真鶴ファンやリピーターの増加につなげることを目指す。
- 時代の変化とともに増えている“一人旅”の受入態勢の充実を図ることにより、リピーターの増加につなげることを目指す。

【具体的なアクション】

- 1) 観光協会及び商工会を中心に各組合を主体とした情報交換会や勉強会などの実施
 - ▶ 一つの苦情が町全体のイメージダウンとなる。さまざまな観光客と直接接することが多い事業者の皆様が情報交換会や勉強会を開催することにより、さまざまなケースの対応策の発見につながり、町全体のイメージアップにつなげる。
 - ・各々のセールスポイントやこだわりをまとめた冊子の作成(パンフレットに入れてもよい)
 - ・ホテルの支配人などを招き、サービス等の勉強会を実施する。
- 2) “一人旅”受入態勢の整備
 - ▶ 時代の変化とともに増えている“一人旅”の積極的な受け入れを可能にするためにはどうしたらいいか、飲食店と宿泊施設との連携など、客室稼働率の向上も含め検討する。
 - ・旅館組合や民宿旅館組合や飲食店組合の集まりにて、議題に挙げる。
 - ・一人旅の受け入れに対する問題点をあげ、解決する。
 - ・一人でも宿泊できる&食べられるお店をわかりやすくまとめる。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト④ 二次交通の利便性の向上（インフラ整備を含む）

（まちづくり課）

【趣旨・ねらい】

■真鶴駅から真鶴岬まで徒歩1時間15分（港経由）。小さな町だが起伏が多く、二次交通が観光客の重要な交通手段であるが、観光客の減少とともにバス会社の撤退などが危惧される。個人旅行や少人数旅行などの“小さな旅”に対応可能な二次交通の充実を図り、旅行者の滞在時間の延長につなげることを目指す。

【具体的なアクション】

1) 交通事業者との連携

- ▶ 観光客の減少に伴い、路線バスの運行本数が減少傾向の中、コミュニティバスの運行と合わせた総合的な路線バスの展開を検討する。また、周遊パスの発行など、観光客の利便性をあげる展開を図り、充実した真鶴時間を過ごせるツールづくりに取り組む。
- ▶ タクシー会社との連携を図り、観光タクシーによる運転手さんとの交流ときめ細かい観光案内で真鶴観光の充実を図る。
 - ・観光情報を交通事業者へ情報提供する。
 - ・真鶴町や近隣を含め周遊できるプランをタクシー会社と一緒に作る。

※【総合計画】No. 1304 コミュニティバス運行事業

2) レンタサイクル事業の充実

- ▶ 観光協会で実施しているレンタサイクル事業の充実を図る。ダンプ等の大型車の往来が多く、道幅も狭い場所が多い真鶴町の道路事情では危険を感じる場合もあるが、レンタサイクルの普及と併せサイクリングの観光客に配慮した交通マナーの普及にも取り組む必要がある。レンタサイクルを利用していただくことで、真鶴の空気を感じていただくとともに二次交通の不足を補う役割と環境に配慮した周遊が期待できる。
 - ・レンタサイクルのお客様等に配慮した運転を、事業者や町民へ心がけを促す。（特に県道）
- ▶ 観光客のニーズに合わせたサイクリングのモデルコースを作成することで、起伏の多い真鶴町を効率よく周遊することが可能になる。
 - ・駅前案内所からの新たなモデルコースの作成（車では行けない場所も盛り込む）。
 - ・協会員（宿泊施設等）との連携による1泊2日のレンタサイクル事業

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑤ 分かりやすい町案内

(産業観光課・まちづくり課・教育委員会)

【趣旨・ねらい】

- 真鶴町を歩いていると入り組んだ背戸道やふと目に飛び込んでくる港の景色、町の人との交流や人々の営みなど、たくさんのことに気づくことができ、楽しむことができる。歩いているから楽しめる観光の充実を図るため、わかりやすく楽しめる観光案内板（サイン）が必要である。
- 圏央道の開通に伴い、埼玉群馬方面から自動車による観光客が増加傾向にあるなか、町のポイントとなる箇所へ自動車から見てもわかりやすい標識（サイン）を設置し、観光客にやさしい町案内に取り組む。

【具体的なアクション】

1) 観光案内板の設置（歩く人に対して）

- ▶ 統一したデザインで景観を損ねることのない案内板を設置することで、町を歩く人が“美の町真鶴”を感じ、気持ちよく散策できる環境を整備する。
 - ・歴史的や文化的な場所（如来寺跡等）に簡単な紹介版を作る。
 - ・真鶴町らしい「昭和レトロ」な歩行者用の案内板や看板の作成。
 - ・子供による TECH LAB での看板作製。
 - ・「幸せをつくる真鶴時間」のロゴマークを入れた統一的なデザイン。

2) 標識（サイン）の設置（車の人に対して）

- ▶ 自動車からは一瞬だけしか認識できない標識（サイン）でも、統一したデザインで景観を損ねることのない標識（サイン）を設置することで、“美の町真鶴”を感じ、気持ちよく目的地にたどり着ける環境を整備する。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑥ インバウンド対策

(産業観光課)

【趣旨・ねらい】

■外国人受けするお城や温泉、目立った観光施設がない真鶴町にとって、首都圏に最も近い昔ながらの小さな漁村の風情と真鶴人らしいコミュニケーションを活かし、真鶴町に親近感を抱いていただく観光のあり方に取り組む。

【具体的なアクション】

- 1) 真鶴人との交流を通じて日本のマナーを学び、楽しむ
 - ▶ 民宿での宿泊を通じ、日本の文化について学び、体験してもらう。
 - ▶ 町民との交流を通じ、真鶴町独特の文化や風習などを伝える。
 - ・ JNTO 認定外国人観光案内所 カテゴリー1の申請（観光協会）
 - ・ 本小松石を売り、TECH LAB で体験。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑦ マーケティング

(産業観光課)

【趣旨・ねらい】

■定期的に顧客満足度調査などを実施し、観光客の意見や情報を共有しながら随時改善を行っていくことにより、真鶴町の観光全体のレベルアップを図る。

【具体的なアクション】

- 1) 真鶴町の観光に対する意見等の共有
 - ▶ 定期的に顧客満足度調査やアンケート調査等を実施するとともに、クレーム情報等を一括管理し、情報の共有を図ることによって、観光地としての品質管理を徹底する。
 - ・ 携帯電話のGPSを利用した観光動態調査を実施し、結果を踏まえターゲット地域等を把握。
 - ・ インターネットでの口コミ情報のチェック。

※【総合計画】No. 3305 観光宣伝事業

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑧ 観光交流の場づくり

(産業観光課・教育委員会)

【趣旨・ねらい】

- 体験プログラムを通じ、観光客の滞在時間延長へつなげ、家族旅行や女子旅などでも訪れやすくなり、SNSでの発信率を高める。
- コンパクトな町を活かし、まちあるきツアーを造成することにより、真鶴町を五感で感じ、町民とのコミュニケーションを生み出し、真鶴町を好きになってもらう。
- リピーターにつながるような観光モデルコースを設定し、“おもてなし”による顧客満足度を高める環境を作っていく。
- 観光客同士・町民と観光客等、人と人が繋がり、さらには真鶴町の自然の恵みと人が繋がる。

【具体的なアクション】

1) 体験プログラムづくり

- ▶ 日常で当たり前だと思われる真鶴町の観光資源をリストアップ・磨き上げ・加工し、観光客にとって魅力的な体験プログラムを作成していくとともに、体験プログラムを実践できる人と場所を作り出す。
 - ・本小松石を売り、TECH LAB で体験。
 - ・遠藤貝類博物館での貝磨き体験。

※【総合計画】No. 3201 観光の振興と産業の複合化の促進
里海B A S E事業

2) まちあるきツアーの造成

- ▶ ジオサイトなど真鶴町の成り立ちから海や森、人々の営みなど、真鶴ライフを想像・体験できるツアーを造成する。
 - ・平成30年度「全国展開事業」で作成したマップを基に、ツアーを作成する。

3) 観光モデルコースの設定

- ▶ テーマや季節ごとにストーリー仕立てとなったモデルコースの設定。協議会で認定したスポットを巡る「幸せをつくる真鶴時間ツアー」を設定する。

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑨ 価値の再認識

(産業観光課・教育課)

【趣旨・ねらい】

- 真鶴町の産業である漁業・石材業・農業の歴史や文化を学び、正しい知識を得ることにより、価値の再認識をする。
- 町の貴重な財産の一つでもある「お林」の価値を再認識することにより、お林の価値を高め、環境教育の推進や漁業振興につなげることをねらいとする。
- 価値の再認識を繰り返すことにより、未来の真鶴を担う子どもたちへも、歴史を伝承することができる。

【具体的なアクション】

1) 歴史・文化の勉強会

- ▶ 漁業・石材業・農業の第一線で活躍する方たちより、歴史・文化を含めた各々の産業の価値、他には負けない強み等を学ぶ。
 - ・小中学生に対し、「ふるさと教育」の一貫として、実施する。
 - ・「くすのきゼミ」(真鶴町の自然、歴史、文化、産業等の知識や教養を深める講座)との連携及び周知。

※【総合計画】No. 4202 伝統芸能保存と継承
No. 4301 まなづるふるさと教育推進事業

2) 真鶴町お林保全協議会との連携

- ▶ 町民・漁業関係者が昔から大切に守ってきた「お林(魚付き保安林)」。観光資源でもあり漁業に欠かせないこのお林の価値を皆で再認識し、さらに価値を高め、魚付き保安林としての機能を保ちながら活用していく。
 - ・観光ガイドを付けた特別なルート作り

※【総合計画】No. 1101 御林環境保全事業

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑩ 特産品の開発・普及

(産業観光課 産業係)

【趣旨・ねらい】

- お土産・特産品を通じて、真鶴の魅力を町外へ持ち帰っていただくとともに、それらを販売することにより、地域内観光消費の拡大を図る。
- 「自然相手」に生活をしている真鶴ライフを理解し、“今だけ”の特別感をお客様に感じていただく。
- 日本の銘石、最高級品のひとつとされている本小松石の価値や美しさを理解していただくため、実際にお客様の手の届く価格で身近に感じてもらう。
- 現在、真鶴町に存在する特産品等をさらに普及させ、町内外へ定着させていく。

【具体的なアクション】

1) 真鶴らしいお土産・特産品の開発

- ▶干物や塩辛に加え、真鶴町の伝統的な食や素材、特産物を活かしたお土産・特産品を開発し、生産ルートや販売ルートの開拓を図る。(例：日持ち、常温保存可能、小分け等)

※【総合計画】No. 3101 まなづるブランド(まなづる逸品)事業

2) 期間限定の新メニューの開発

- ▶生産者市場である強みを活かし、スーパーなどには出回らない「未利用魚」や足の早い魚など、旬な時期に真鶴町でしか食べられない食材を使用したメニューを作り、お客様に“今だけ”の特別感を感じていただき、その貴重さも伝える。(例：ハンバ、塩うずわ、尾赤ムロアジ等)

3) 小松石の活用

- ▶最高級品ということ承知のうえで、まずはお客様の手の届く価格で開発・流通・販路拡大を実施していく。
(例：安産守り(お酒とセット販売、出産後に子供の名前を石に彫る、ボトルにかけておき、20歳のお祝いで親子で乾杯。))

※【総合計画】No. 3302 石材業活性化事業

No. 3201 観光の振興と産業の複合化の促進

4) まご茶漬け・いか爆弾の普及

- ▶昔からの郷土料理「まご茶漬け」、2016年にTOKYO & AROUND TOKYO 地場産品“観光振興賞”受賞の「いか爆弾」の普及を図り、「真鶴に行ったら絶対に食べたいもの」という価値を作る。

※【総合計画】No. 3101 まなづるブランド(まなづる逸品)事業

基本戦略1	基本戦略2	基本戦略3	基本戦略4
真鶴人づくり	受入態勢づくり	観光資源の掘り起し 及び改善	一元的な情報発信と プロモーション

プロジェクト⑩ 効果的なプロモーションの展開

(産業観光課)

【趣旨・ねらい】

- 現代社会において重要な情報収集源となっているのがインターネットである。そこに情報発信をすることにより、それを最大限に活用する若者や外国人の目に留めさせる。
- 簡単にわかりやすく手に入る情報で、観光・体験をしていただき、さらにそれを個人の SNS 等で発信する連結型発信が生まれる。
- 真鶴ライフの一つ一つを切り取り動画で流すことにより、言葉や写真よりも視覚的なイメージをわかせる、興味を持ちやすくする。
- 一瞬にしてお客様の目を惹きとめ、「気になる」「調べてみよう」「行ってみたい」と思わせるようなインパクトを出す。

【具体的なアクション】

1) インターネット環境を活用した真鶴町の魅力の発信

- ▶ 世代や人種に関係なく、今や全世界の人が利用している各種 SNS 等で、動画や写真を使い真鶴町の魅力を発信していく。
- ▶ 真鶴ライフを表す「真鶴町での遊び方の動画」等、これぞ真鶴！というものを作成し、さまざまな場所で流し、“幸せをつくる真鶴時間”を具現化する。
- ▶ 「真鶴へ行くならこのページ」となるよう、観光情報発信を HP・SNS 等それぞれ一本化することにより、お客様にとって簡単にわかりやすく情報が手に入るようになる。
 - ・関係者だけでも繋がるメーリングリストの作成。
 - ・観光情報をまとめて一本化した SNS のアカウント共有。
- ▶ 素朴でゆったりとした美の町であり、昔ながらの小さな漁師町である真鶴町の魅力を、外国人観光客にも伝えるため、各種 HP 等も多言語対応する。

※【総合計画】No. 3305 観光宣伝事業

2) 看板の作成

- ▶ “幸せをつくる真鶴時間”というコンセプトに沿った看板やポスターを、観光の玄関口である駅前に設置し、誘客のためにポスターを町外へ掲出する。
 - ・JRと連携し、駅にポスターボードを設置。

3) パンフレットの充実

- ▶ 観光客のニーズにあったパンフレットの作成。

※【総合計画】No. 3305 観光宣伝事業

幸せをつくる真鶴時間

神奈川県の西、ちょこんと顔を出す小さな港町、真鶴。

人々の営みは、昔のまんま。
歴史を育み、どこか懐かしく感じる風景や町並み。
人の温かみを感じられる手作りにこだわる職人さん。
近所のおばちゃんは真鶴のお母さん、おじちゃんは真鶴の物知り博士。

真鶴にもたらされる自然の恵み。
お林の恵みを受けおいしく育った魚たち。
斜面を生かして太陽をたくさん浴びた柑橘類。
町の繁栄を支えてきた町並みを彩る本小松石。
それはわたしたちにとってみんな宝物です。

人々の営みと自然の恵みが結びつく場所。
約束などしていないのに、惹きつけられたように集まる人々。
伝統行事「貴船まつり」をはじめ、小さな催しもそのひとつです。

素朴ですが、ゆったりとした時間の中でホッとする。
だれでも受け入れてくれる、人のぬくもり。
ちょっと町へ出ると、いつもの顔にたくさん出逢える。
“幸せをつくる真鶴時間”



幸せをつくる
真鶴時間

Find happiness in Manazuru